

雇用型園芸経営における工程管理のポイント

【1 成果の概要】

作業データに基づく工程管理に取り組んでいる雇用型園芸経営（4経営）を調査し、その取組実態からみた工程管理のフローチャートと各プロセスのポイントをまとめました。

(1) 工程管理（PDCA）の仕組みづくり

まずは仕組みづくりが取組の基本です。経営の現状はどうなっていて、何が課題かを整理し、何のために工程管理やデータ収集を行うかを明確にします。その上で、目的達成に必要な記録項目や集計内容等を決め、具体的な方法を検討することが重要です。

(2) PDCA サイクルを支える人的資源管理

PDCA サイクルは継続して回し続けることが重要です。各プロセスにおける担当者を明確にし、工程管理に集中して取り組めるような業務分担や、勉強会及びOJT等によりスキル向上を図ることが重要です。

工程管理（PDCA）の仕組みづくり

①現状把握と課題整理

（経営の現状はどうなっていて、何が課題か）

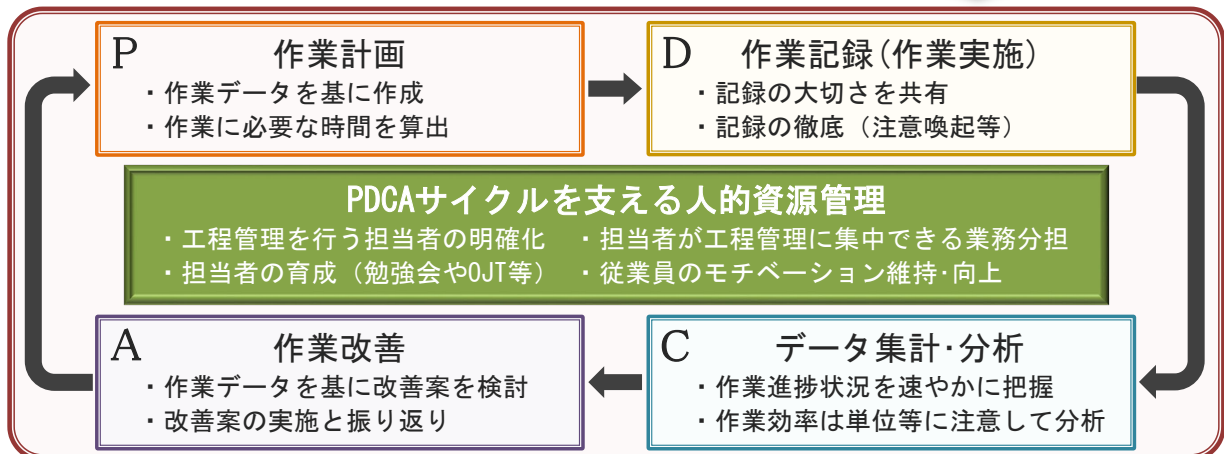
②目的の明確化

（何のために工程管理やデータ収集を行うか）

③記録項目及び集計・分析内容

④記録方法及び集計・分析方法

⑤実施及び振り返り・修正



(3) 工程管理のPDCA（Plan, Do, Check, Action）サイクル

【P：作業計画】 作業に必要な時間を算出し、過不足なく人員配置することが重要です。

【D：作業記録】 記録の大切さを共有し、定められた方法で実績を記録させることが重要です。

【C：データ集計・分析】 作業進捗状況の確認と対策、作業効率の分析が重要です。

【A：作業改善】 集計・分析データを基に改善案の検討、実施、振り返りを行うことが重要です。

【2 効果】

ムダ・ムラの解消等による
作業効率向上

+

計画的な栽培管理等による
収量向上

➡

労働生産性の向上

【3 留意事項】

詳細は、別途作成する試験研究成果書や報告書を参照してください。

【4 活用場面】

各経営体での工程管理の取組、普及センター・農協等の指導・支援の参考となります。